

<白金標準、4593 円からのレンジ離脱を試みる・・・>



(出所：オアシス)

ISM 非製造業景気指数や小売売上高が予想外の好転を行い、また米国債金利が短期 2 年債と長期 10 年債の金利がステーブル化を示し続けており、米国に対する景気減速リスクが後退し、ソフトランディングの見方が強まりを見せている。しかし欧州ではドイツ EZW 景況指数が低下し景気減速懸念の動きや中国では人民銀行がローンプライムレート 1 年物の金利を据え置くなど景気刺激策の思惑が低下している。

そのため FOMC や日銀金融政策決定会合を受けた金価格の大幅高に比べ、白金価格は非鉄金属の価格下落など中国景気に対する懸念が戻りを抑え込む動きに結び付いており、8 月 16 日の高値 4593 円を週末に超える事が出来なかった事からレンジからの離脱が確認されていない。そのためテクニカルで示す 40 日移動平均線が位置する 4451 円に向けた下値模索の展開には注意が必要と思われる。

しかし 4593 円を超えるとチャートパターンが示す W ボトムの完成から 4800 円に向けた回帰相場を続けると思われる、今週は 4593 円が重要になるとと思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が上昇し、**シグナル** も上昇している。RCI では**短期**が高値を維持し、**長期**は上昇している。また日足が **200 日移動平均線**に向けて戻りを続けており、4600 円が通過点になるとと思われる。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引1,437,000円(2024年9月24日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復76,560円(2024年9月24日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当日本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話03-5540-8423(受付時間:平日8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>